

## 耕種農家、畜産農家の所得向上を目的に、稲発酵粗飼料を活用した耕畜連携に取り組んでいます

石川農林総合事務所



収穫コントラクター、キックオフ  
現地検討会



自走式飼料用稲専用収穫機の導入

畜産経営は、輸入飼料価格の高騰から大変厳しい状況が続いており、安定的な畜産経営を行うためには、飼料自給率の向上が欠かせない状況となっています。

一方、米の消費低迷から水田の有効活用の一つとして、稲の穂と茎葉を丸ごと乳酸発酵させ飼料とする稲発酵粗飼料（稲 WCS）の栽培・利用が全国的に広まっています。

このことから、当事務所では、平成 22 年から石川県立大学や酪農家、耕種農家、JA 等関係機関と協力し、稲 WCS 収穫・調整専用の試作機を利用して、稲 WCS の低コスト多収栽培や家畜への給与実証を行ってきました。

その結果、今年度、白山市内で堆肥の製造・販売を担っている「(株)有機センター白山」が、県内初の稲 WCS を収穫する受託組織（コントラクター）部門を設立し、耕種農家栽培の稲を調製・飼料化し、畜産農家へ供給する事業を開始しました。

9 月 11 日には、白山市内で耕種農家、畜産農家、関係機関、報道機関など計 40 名の参加のもと、稲 WCS の収穫コントラクター、キックオフ現地検討会を開催し、稲 WCS の管内での定着と拡大を図りました。

今後は、「(株)有機センター白山」とともに、管内畜産農家はもとより、県内での広域流通を視野に検討を進めることとし、現在、10 ha 余りの稲 WCS の栽培面積については、30 ha を目標に、関係機関等と協力し支援していきます。

問い合わせ先：石川農林総合事務所農業振興部  
(076-276-0371)